

経済・金融
フラッシュ米個人所得・消費支出(24年7月)
堅調な消費とインフレの落ち着きを確認

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 個人所得(前月比)は市場予想を上回る一方、個人消費は市場予想に一致

8月30日、米商務省の経済分析局(BEA)は7月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.3%(前月:+0.2%)と前月、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.2%を上回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.5%(前月:+0.3%)と前月を上回った一方、市場予想の+0.5%に一致した。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.4%(前月改定値:+0.3%)と+0.2%から小幅上方修正された前月、市場予想の+0.3%を上回った(図表5)。貯蓄率は2.9%(前月:3.1%)と前月から▲0.2%ポイント低下した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.2%(前月:+0.1%)と前月を小幅に上回った一方、市場予想(+0.2%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.2%

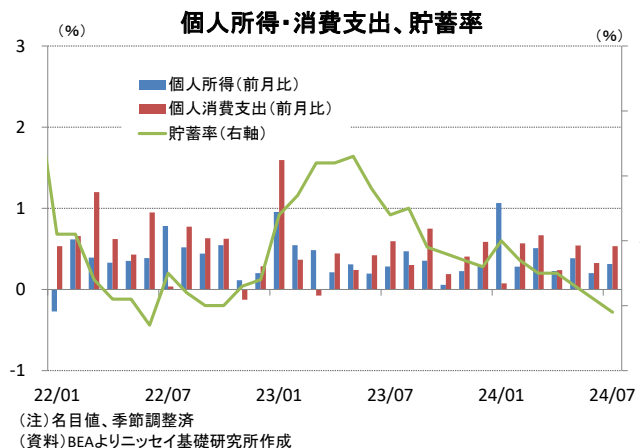
(前月:+0.2%)とこちらは前月、市場予想(+0.2%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+2.5%(前月:+2.5%)と前月、市場予想(+2.5%)に一致した。コア指数は+2.6%(前月:+2.6%)とこちらは前月に一致、上昇を見込んだ市場予想(+2.7%)を下回った(図表7)。

2. 結果の評価: 消費の伸びが加速する一方、インフレの落ち着きを確認

実質GDPにおける個人消費は4-6月期の前期比年率が+2.9%と非常に堅調な伸びとなったが、7月の個人消費(前月比)が+0.5%と前月の+0.3%から伸びが加速したことで7-9月期も個人消費の堅調が続いていることを確認した(図表1)。

これに対して可処分所得(前月比)は24年2月以降、個人消費の伸びを下回る状況が続いており、7月の貯蓄率は2.9%と22年6月以来の水準に低下した。このため、24年初から消費者は貯蓄を取り崩して消費する傾向が続いており、労働市場の減速感が強まっている中で今後は足元の堅調な個人消費を維持するのは困

(図表1)



1 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

難となる。

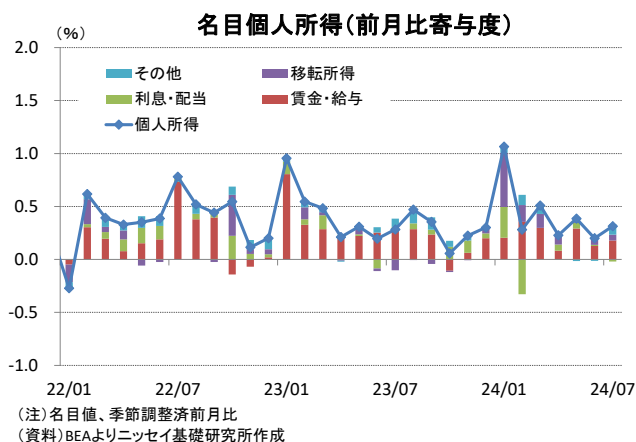
一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数の前月比は総合指数が前月から小幅に上昇したものの、依然として低水準を維持しているほか、物価の基調を示すコア指数は前月並みの低い伸びが続いている。とくに、コアPCEは3ヵ月前比年率が+1.7%とFRBの物価目標（2%）を下回り、23年12月以来の水準に低下するなど足元で物価上昇圧力が緩和していることを確認した。この結果、当月の統計は個人消費の伸びが加速する一方、インフレが落ち着いていることを示しており、労働市場の減速が明確になる中でFRBによる9月の利下げ開始をサポートする内容と言える。

3. 所得動向: 自営業所得の伸びが加速

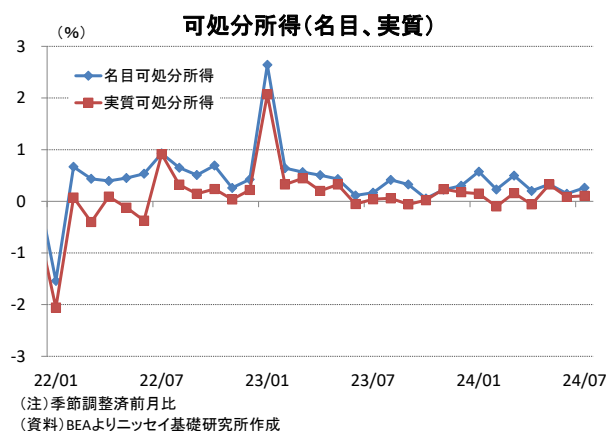
7月の個人所得（前月比）では、賃金・給与が+0.3%（前月：+0.2%）と前月から小幅ながら伸びが加速したほか、自営業所得が+0.6%（前月：横這い）と大幅に伸びが加速した（図表2）。一方、移転所得が+0.3%（前月：+0.4%）と前月から小幅に伸びが鈍化したほか、利息配当収入が▲0.1%（前月：+0.1%）と前月からマイナスに転じた。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、7月の名目が+0.3%（前月：+0.1%）と前月から伸びが加速した（図表3）。また、価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）は+0.1%（前月：+0.1%）とこちらは前月並みの伸びに留まった。

（図表2）



（図表3）



4. 消費動向: サイバー攻撃の解消に伴い自動車関連が大幅に増加

7月の名目個人消費（前月比）は、サービス消費が+0.4%（前月：+0.4%）と前月並みの伸びを維持した一方、財消費が+0.7%（前月：+0.1%）と前月から大幅に伸びが加速した（図表4）。

財消費は、耐久財が+1.4%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じたほか、非耐久財が+0.4%（前月：+0.2%）と小幅ながら伸びが加速した。

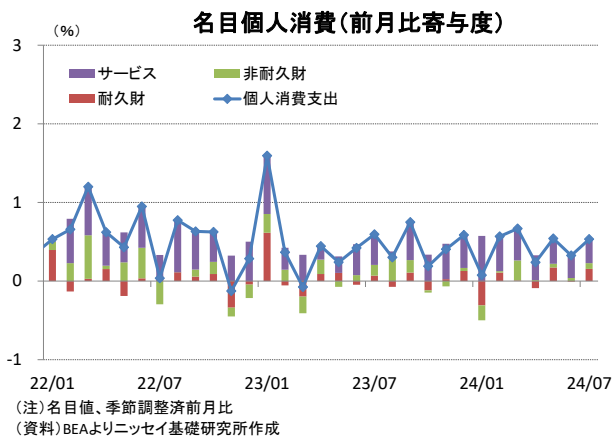
耐久財では、自動車・自動車部品が+3.3%（前月：▲3.0%）と前月から大幅なプラスに転じた一方、家具・家電が+0.5%（前月：+1.5%）、娯楽財・スポーツカーが+0.4%（前月：+1.5%）と前月から伸びが鈍化した。自動車販売は、6月に全米の自動車販売店の半数と取引のあるソフトウェア会社のCDKグローバルがサイバー攻撃を受けて大きな打撃を受けていたが、7月はサイバー攻撃

の解消に伴う回復がみられた。

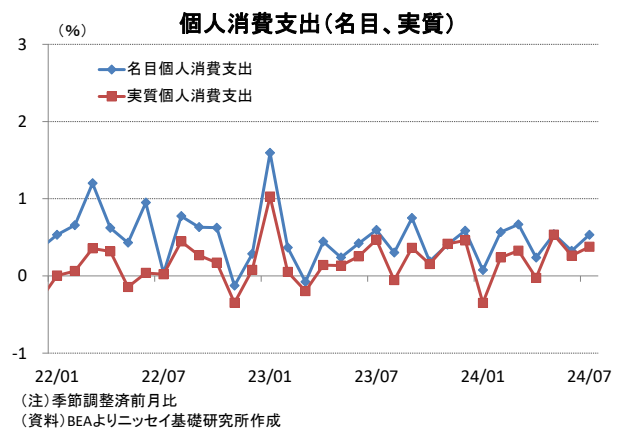
非耐久財では衣料・靴が▲0.3%（前月：+0.8%）と前月からマイナスに転じた一方、ガソリン・エネルギーが横這い（前月：▲3.9%）と大幅にマイナス幅が縮小したほか、食料・飲料が+0.8%（前月：+0.5%）と伸びが加速した。

サービス消費は、輸送サービスが+0.2%（前月：▲0.2%）と前月からプラスに転じたほか、住宅・公共料金が+0.5%（前月：+0.4%）、医療サービスが+0.2%（前月：+0.1%）、娯楽サービスが+1.2%（前月：+0.7%）、外食・宿泊が+0.5%（前月：+0.2%）、金融サービスが+0.6%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速した。

(図表 4)



(図表 5)

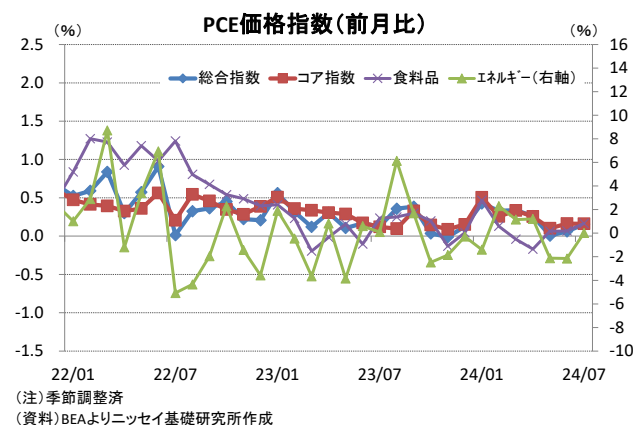


5. 価格指数:エネルギー価格(前月比)は3ヵ月ぶりにプラス転換

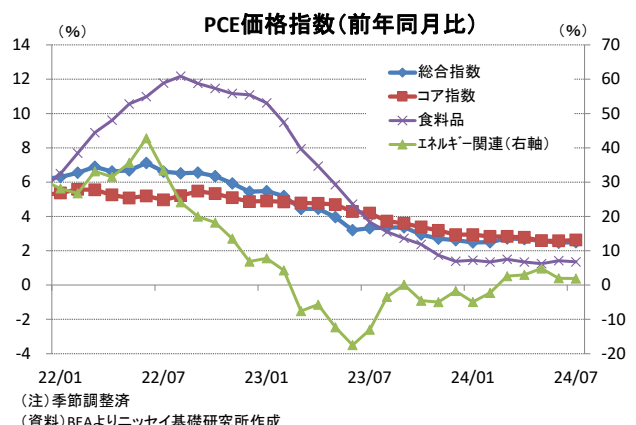
価格指数(前月比)の内訳をみると、エネルギー価格指数が横這い(前月：▲2.2%)と3ヵ月ぶりにプラスに転じた(図表6)。一方、食料品価格指数は+0.2%(前月：+0.1%)とこちらは3ヵ月連続でプラスとなった。

前年同月比は、エネルギー価格指数が+1.9%(前月：+2.0%)と5ヵ月連続でプラスとなった(図表7)。食料品価格指数は+1.4%(前月：+1.4%)と前月並みの伸びを維持し、85ヵ月連続でプラスとなった。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません